



本郷台小 だより

12月

横浜市立本郷台小学校
令和3年11月30日
栄区本郷台一丁目6番1号
Tel. 045-893-4010



学校ホームページ： <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongodai/>

伝える思い つなぐ思い

副校長 鈴木 勝之

医療関係者をはじめ感染症に様々な形でご対応いただいている皆様、そして、本校の感染症対策にご理解ご協力してくださっている保護者、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

最近のテレビCMで、とても心に響いたキャッチコピーを耳にしました。「どれだけ時代が変わっても、変わらない願いのために…」という言葉です。学校現場での変わらない願いとは何だろうと考えてみました。いくつか浮かんだ中に「思いを伝える」という行為がありました。授業中のやり取りから何かの発表に至るまで、学校生活には、その行為を学習に組み込ませた様々な活動があります。言葉や身振り手振りはもちろん、歌や作品等でも思いを伝えている日々です。社会全体を見渡しても、思いを伝えたいという気持ちは、人々が持ち続けてきた願いであり、最近では、その思いを「つなぐ」ことの価値も多方面で大きく取り上げられ、重要視されています。ここでは台小の11月を振り返り、「思いを伝える、つなぐ」姿が見られた場面についてふれてみたいと思います。

11月10日(水)創立記念講話朝会では、台小の歴史について紹介し、先輩である二人の卒業生に、在校生に向けて話をしてもらいました。二人はそれぞれのメッセージで「人生を楽しむことを大切にしてほしい。」「一歩行動にうつすことを大切にしてほしい。」という思いを伝えてくれました。また、「つながりを大切にしたい。」と口を揃えて語っていました。二人は今、放課後キッズクラブのスタッフとして、正に台小やキッズクラブへの思いをもち、つながりを大切にしながら活躍しています。47回目の創立記念講話は、卒業生の熱い思いが伝わる、つながる素敵な一時となりました。

翌週11月17日(水)の朝会では、学童横断の看板にまつわる話を紹介しました。長光寺交差点に設置されているドラえもんが描かれた看板で、なんと、30年前に設置されたものです。当時は、登下校時の交通事故が多発していたそうで、その状況を改善したい、子どもたちの安全を守りたいという強い思いで校外委員長さんと学校が話し合い、看板設置が実現しました。この思いは現在の見守り活動へと受け継がれ、保護者、地域の方々のご協力でも子どもたちの日々の安全が守られています。学童横断の看板は、思いを過去から今につなげ、未来へ伝える象徴といえます。

11月22日(月)から始まった「かがやきステージ」は、学習の成果や経過を発表する活動です。昨年度に引き続き今年度も「かがやき週間」として、学級ごとに時間を設けて発表しましたが、以前の形態と変わらず、子どもたちがあふれる思いを精いっぱい伝える姿をご覧いただけたのではないのでしょうか。どの学級の発表も、とても素敵でした。自分たちの取り組んでいる活動そのものに対する思い、日々楽しく過ごしている学校への思い、周囲の人々の気持ちに働きかけたいという思いなど…、学級ごと、あるいは一人ひとりの多種多様な思いがはっきりと伝わったことと思います。その発表や思いに対して保護者の皆様からは温かい拍手や感想を返していただきました。伝えるだけでなく、双方向で思いを伝え合う「かがやきステージ」にすることができました。本当にありがとうございました。

この先、どれだけ時代が変わっても、人々の思いを伝えたい、つないでいきたいという願いは、きっと変わることはないでしょう。次の時代の担い手である子どもたちが、しっかりと思いを伝える、つなぐことができるように、そのために必要な力を身に付けられるように、学校全体で教育活動に取り組んでいきたい、そんな思いにつながった台小の11月でした。



6年生3クラスの発表の様子